2021.9.22
総合研究院フォーラム

東京理科大学
TOKYO UNIVERSITY OF SCIENCE

RIST TUS
Research Institute for Science & Technology

東京理科大学 Since 1881 140th Anniversary

日本の薬物治療を変えるアカデミック・ディテーリング
～基礎薬学を臨床につなぎ最適処方を提案～

研究推進機構　総合研究院　アカデミック・ディテーリング・データベース部門

▶ 研究概要

1. アカデミック・ディテーリングとは

◆コマーシャルベースではない公正中立な根拠に基づく医薬品の情報提供を医師に対して行うことであり、海外ではアカデミック・ディテイラーとして薬剤師が活躍しています。

Web site of ACADEMIC DETAILING at Alose Health

2. 医薬品比較システムの開発

◆米国では医薬品情報を活用しやすく加工した配信システムが整備され、薬剤師はベッドサイドでシステム活用により、医薬品を比較し処方提案しています。日本でもアカデミック・ディテーラーが活用できるわかりやすいシステムを開発しています。

図１．医薬品検索画面

3. アカデミック・ディテーラー養成プログラムの開発

◆日本版アカデミック・ディテーリングは、基礎を臨床につなぐ科学的視点を強化することを特徴（図３）とし、さらにエビデンスを活用した公正中立な医薬品比較情報を、能動的に発信する新たな医薬品情報提供アプローチ（図４）として、今年度は高血圧のWeb研修プログラムを開発しました。

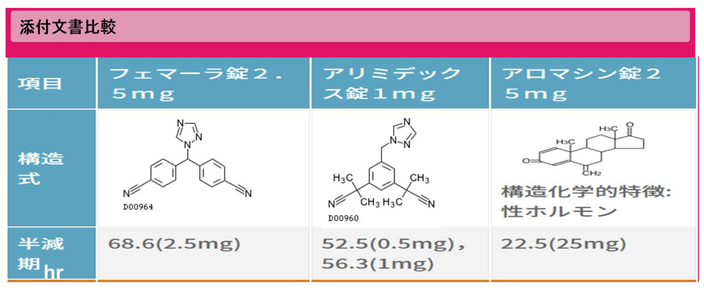

図２．医薬品の比較情報を一覧表示

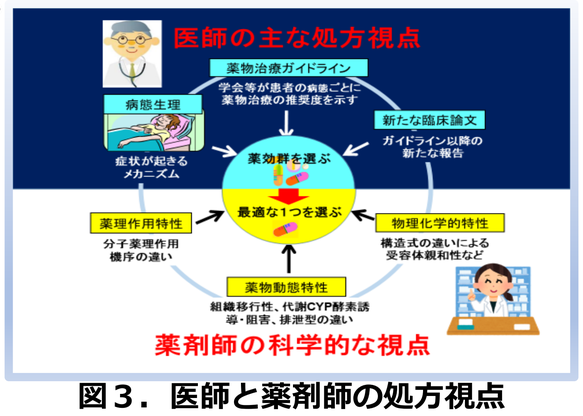

図３．医師と薬剤師の処方視点

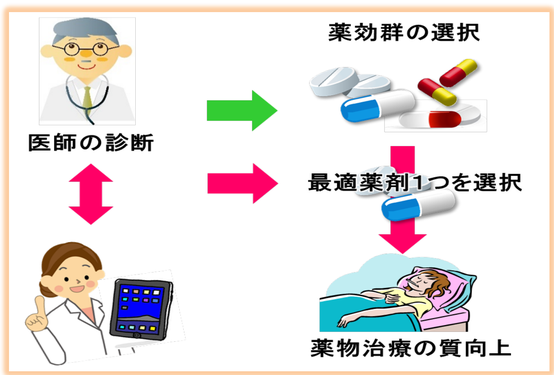

図４．日本のアカデミック・ディテーリング・イメージ

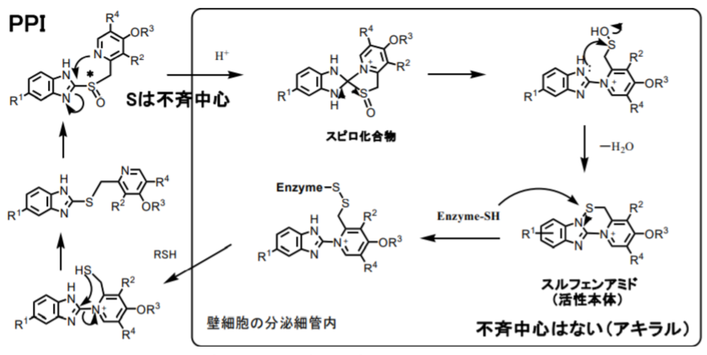

図５．プロトンポンプ阻害薬の阻害様式

4. プロトンポンプ阻害薬のアカデミックディテーリングに関する研究

◆医薬品情報におけるプロトンポンプ阻害薬の阻害様式（図５）はいずれも非可逆的であるが、現場の薬剤師はラベプラゾールのみ可逆的であるという認識がされているため、その情報源を調査しています。

▶ 研究開発成果

本邦初のアカデミックディテーラー39名誕生

↓

アカデミック・ディテーリング効果に関する研究

◆医師にアカデミック・ディテーリングを行うことにより、医師の処方行動にどのような影響を与えるか研究を行っています。

↓

★研究のゴール

アカデミック・ディテーリングの普及により、最適な処方につなげ、日本の薬物治療の質の向上に貢献する。

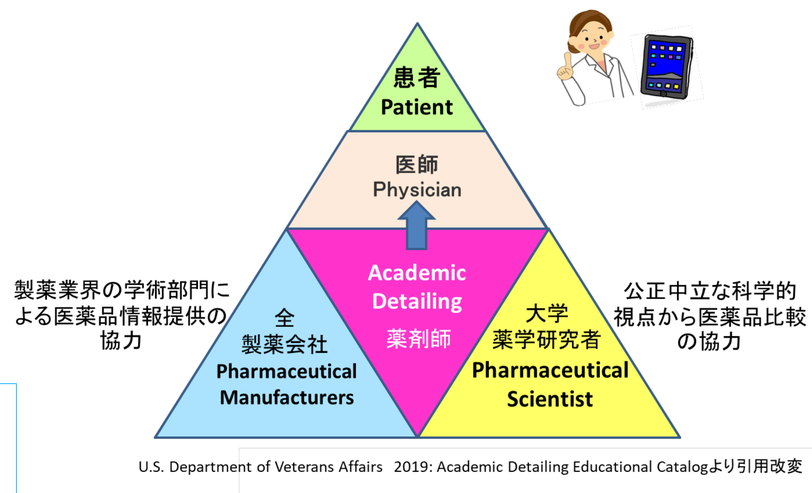

図６．オール薬剤師で取り組むディテーリング資材開発

▶ 今後の展開

創薬データベースを医薬品につなぎ、アカデミック・ディテーリング支援システムの充実と共に、アカデミックディテーラー養成プログラムの疾患領域拡大を図る。

【連絡先】部門長（薬学部薬学科）青山隆夫
t-aoyama@rs.tus.ac.jp